

信州大学サポーターズクラブ

メ | ー | ル | マ | ガ | ジ | ン | 第 93 号 |

信州大学サポーターズクラブ事務局

2021年4月30日

.....毎月月末に配信しています.....

【 I N D E X 】

名誉教授より皆さんへ

サポーターズクラブからのお知らせ

信州の景色

■ ■ ■ ■ ■ 【名誉教授より皆さんへ】 ■ ■ ■ ■ ■

今回は繊維学部の名誉教授である大谷 毅先生より
ご寄稿いただきました。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

■ ■ ■ ■ 【サポーターズクラブからのお知らせ】 ■ ■ ■ ■

サポーターズクラブ会員募集のお知らせ

信州大学サポーターズクラブでは、多くの方に「信大
サポーター」として会員になっていただき、大学と会員と
の連携強化を目指しています。会員の皆様の周りにおられ
る在学生や卒業生、保護者、教職員といった信大関係者の
方々を是非、サポーターズクラブへお誘いください。

また、サポーターズクラブは、直接信大にゆかりがなく
ても、信大に関わるすべての方々が参加できる団体です。
卒業生じゃないから・・・とのお声をいただくこともあり
ますが、信大の情報を知りたい、信大生を応援したい等、
きっかけは何でも大丈夫。信大にご興味を持っていただ
ければ「信大サポーター」の仲間入りです！

ご登録いただいた皆様には、メルマガや SNS で信州大学の情報をご案内するのはもちろん、登録いただいたサークルや団体の活動を PR したり、メンバー募集等の告知もお手伝いをいたします。

<http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/>

会員情報登録変更のお願い

お引越し・転勤などにより、登録時の会員情報に変更が生じている会員様はいらっしゃいませんか？ ご登録情報に変更のある方がいらっしゃいましたら、恐れ入りますが下記 URL から登録の変更をお願いいたします。最新の情報をお届けするためにも、今一度ご確認をお願いいたします。

■=====【 信州の景色 】=====■

チューリップ畑

晴れた日が続いたと思ったら、肌寒い曇りや雨の日が数日続くという流れがしばらく続きました。そんな中でも安曇野市の国営アルプスあづみの公園では 93 品種、30 万球のチューリップが順に開花を迎えており、様々な色や形を楽しむことができます。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

メルマガのバックナンバーはこちらから

<http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/mail/>

『信州大学サポーターズクラブメールマガジン』

編集・発行/信州大学サポーターズクラブ事務局

長野県松本市旭 3-1-1

【 Mail 】 koyukai@shinshu-u.ac.jp

【 H P 】 <http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/>

【 F B 】 <https://www.facebook.com/shindai.koyukai>

2021.4.30



信州大学サポーターズクラブ【名誉教授よりみなさんへ】第93号

思い起こせば今から46年も前の1975年3月

信州大学繊維学部名誉教授 大谷毅

事の始まりは面接に呼ばれ松本を訪れたこと。カーネギー系の経営組織論を多少齧っただけで、ドイツ語もマルクスも無縁でかつ単純応募だから、話が進むとは思わなかった。最初の年は外書と演習そして月一回教授会、あとは自分でカネを集めて東京で調査でもやればとの思わぬお誘いに乗る。数年の心づもりが、随分と長居をさせて頂いている。

まだ文理学部の余韻があった人文学部経済学科。3年次の演習で出会う17名の学生とは精々10歳強の違い。小生の如き擦れっ枯らしに比べれば、よほどまじめでナイーブ。世の中常念を中心に回っているとお考えなのかしらと心配になるほどだった。

1年経て就職、出身地に帰るもままならぬ暗い話に終始し、東京本社の「上場会社」を自分とは無縁の外国の会社のように言う。そこでひとり2業種を割り当て、「会社四季報」から、局番03・04の1部上場会社を抽出しリスト作成させる。東洋経済やダイヤモンドで当該業種にかかる記事に触れさせる。2泊3日東京・虎ノ門の共済会館で合宿した。要は、500円札を銀行で10円玉に両替し、公衆の赤電話からリストアップした会社に電話させ、夜、その結果を持ち寄り情報交換させた。グループダイナミクスとはよく言ったもので、まじめでナイーブ、放っておいても営業は推進、数年続け定着していった。22年間で400名弱、内定した会社は数百社にはなろう。しかし、入れたはいいいけど、勤まるのか、いささか気になったので、しばらくはOB会を東京で開催し様子を観察したが、案ずるより産むがやすし。風の便りで、多くは管理職になり、なかには役員、会長まで上り詰めた者もいるようだ。地方にあるからといって、なにも地方に閉じ込める必要はない。

しかし、閉じこもったのは自分かもしれない。初めて触ったコンピュータは1972年でFACOM230-10。Fortran・Cobolの劣等生である。90年バブル後、減量経営、ダウンサイジングにネット化、BPRとリストラ、ERPの普及、事業のglobal化が普通になる。経営問題もがらりと変わる。研修が必要なのは自分なのだ。

県立大学観光学部新設が宙に舞う宮城県から設置申請の「コンサル」依頼を受けた。工学を意識し文理融合の「サービス産業学部」を構想。事情で「事業構想学部」で申請した。小生の裁量で約40名の教員を公募採用、1997年開学、設置者に懐柔され5年ほど付き合う。情報や建築の教員との議論は面白い。が、公立なりの思惑があり、その政治過程を想うに当時の知事も不定見だった。応援して頂いた同県議員今野隆吉氏の質疑の議事録にその一端が見える。

感性工学科のなかの「感性経営」。2002年から繊維学部の厄介になる。結果的に宮城県への出向になるのか珍例かもしれない。お陰さまで大学教員らしく過ごせた。学生部長併任(1984~88年)の頃、北條舒正学長や吉田俊彌・丹野頼元工学部長らの「工学系に博士課程設置は必須」との趣旨が今更ながら理解でき、往年のSuns構築「営業」を思い出す。ファッション工学がらみの3本の科研費で、定年後も永らく客員教授をさせていただき、ときおりお手伝い講義をしている。おろん小生には及びもつかないことだが、Imperial Collegeから始まる100年続いたSchoolを、更に100年延命する戦略こそ、卒業生のためにも、問われているのであろう。

信州大学サポーターズクラブ【信州の風景】第93号

今回訪れたのは、安曇野市の堀金・穂高地区にある公園です。烏川から取水された水路が1本にまとめられた烏川幹線水路が園内を流れていて、園内の小川や池を作っています。この水路は今も活躍する農業用水路で、公園を巡ったあとは、眼下に広がる安曇野の水田に流れ込んで田んぼを潤していきます。



公園の遊歩道をどんどん進んでいくと段々原っぱに向かいます。写真のように色とりどりのチューリップが咲いていて、訪れた人たちの目を楽しませていました。



公園を訪れた日の前日が雨だったので、チューリップの花びらや葉っぱにも雨のしずくが残っていました。ときおり太陽がのぞくと、しずくが光を反射してとても綺麗でした。



訪れた人たちも思い思いにチューリップや周りの景色を眺めたり、チューリップを背景に記念写真を撮っていたりと、穏やかな春の一日を満喫している様子でした。

